

実習レポート

ユン ジェホ

1. 概要

- 1) 場 所： 特別養護老人ホーム、岩崎あいの郷(愛知県小牧市)
- 2) 実習期間： 2007年 11月 12日(月)から(2月までする予定)
- 3) 実習内容： 介護職(入居者の生活全盤を支援)で介護サービス実習

2. 実習内容

施設で働いている全員が、Normalization の概念で入居者¹が普通に暮らせるように援助している。援助の焦点は食事や入浴や健康管理の三つで、その方法に関して実習している。

食事

普通の家庭の雰囲気になれように援助している。食事は2時間²で、入居者の生活のリズムに合えように援助している。出来れば入居者の個人の特徴に答えて援助しているし、基本的には入居者の自分が一人で食べように援助しているが、それが出来ない場合は援助員と一緒に食べながら食事している。

1階にある食堂で真空パックの料理が各ユニットに配達され、それをユニットにある食堂で調理する。援助員はご飯と味噌汁だけ直接に作っているが、食事会³をしながら出た結果を通じて入居者個人に合う食事のスタイルで改善している。

入居者の食事の量と飲み物の量は、バーコーダーで入力して総合介護管理システムに転送することと、紙の日誌に記録する2つの方法でチェックしている。必ず、1食の量は合わなくてもいいが、1日(3食)の量は合えように管理している。

食器や箸及び茶碗は個人が入居前まで使用したものを持って来る⁴。すべての援助が入居の前、普通にした生活ができるようにしている。

入浴

週2回、入浴の援助をしている⁵。

¹ 岩崎あいの郷は施設で生活しているお年寄りを入居者で、介護福祉士を支援員と言われている。なぜなら、お年寄りが借りている部屋に介護福祉士が援助している概念で運営するので。

² 朝ご飯(08:00~10:00)、昼ご飯(12:00~14:00)、夕ご飯(18:00~20:00)

³ 支援員の勉強会で介護福祉士と看護師に中心になって、入居者の食事に関する勉強する。ここで勉強して結果を現場に適用している。

⁴ その以外にも服やテレビなど、個人が使うものは全部持って入居する。

入浴援助の時、援助員1人が入居者1人を援助している。入浴は基本的に普通のお風呂でしているが、寝たきり入居者の場合、4階にある車椅子の入浴機で援助されている。ここの特徴は普通のお風呂と個人と個人⁶の入浴援助することだと思う。そして、入浴時には援助員が日本の伝統の服⁷を着てする。

健康管理

改定した介護保険の予防給付の3つ、運動器の機能を向上させ、栄養の改善や口腔ケアに答え、栄養を管理する食事と口腔ケアをしっかり援助している。

口腔ケアは布で口の中を洗うか、歯ブラシで援助している。個人の部屋で入居者の希望を聞きながら、援助している。

3. 今までの結論

施設を建てた時から Normalization の概念を入れて構造も建てたし、入居者に援助する方式に関しては日本人らしい方式⁸でしている。“改善のヒントは、普通の家で暮らしていることからもらっている”と言われた施設長の話が施設の運営方針を言われていると思う。

韓国と比べて立派な Hardware⁹を学ぶことだけではなく、入居者が普通に生活が出来るように援助している Software¹⁰を学ばなければならないと思われた。介護福祉士の希望や苦勞などは韓国の施設と似ていることが多いが、お金で出来る Hardware ではなく、Software をもっと学ぶことが本当に必要と思う。

4. 写真



リビングや食堂や食器などから普通の生活を目標している施設の運営意志が見えた。

⁵ ケアプランと個人が希望する場合(給付以外請求)は2回以上も支援している。

⁶ 支援者と入居者

⁷ 温泉旅館の職員が着る服。

⁸ 現場から勉強と会議しながら改善する方式

⁹ 施設の建物や年金や介護保険の給付料など

¹⁰ 援助する技術や援助の方針と優秀な介護福祉士を確保する運営技術